

# 学力向上推進地域 研究通信

平成 29 年 6 月 26 日  
 (八次中学校区研究推進地域 第 2 号)  
 研究推進教員 八次中学校 豊永政男

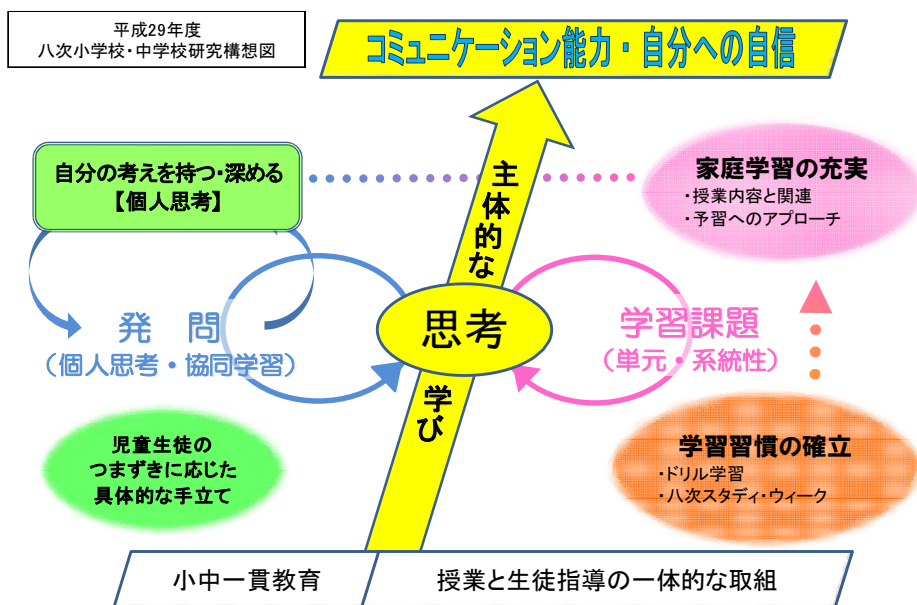
学力向上推進地域の協議会や第 1 回研究授業等への御参加ありがとうございました。今年度の研究の方向性と、第 1 回研究授業(中学校国語)で協議した内容を以下にもまとめております。全教科・全職員での研究推進に向けてご協力をよろしく申し上げます。

## 今年度の研究推進について

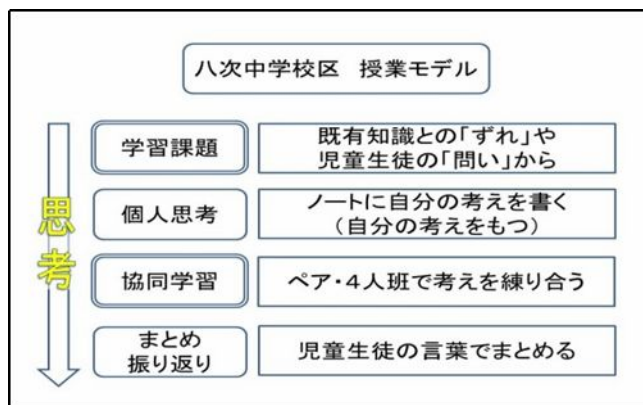
### ①研究主題

児童生徒が主体的に取り組む八次版授業モデルの深化  
 ～ 学習課題と発問の工夫を通して ～

### ②研究構想図



### ③授業モデル



### ④個別の指導計画について

- ・昨年度より、様式の変更
  - 課題となる環境の追記
  - 年度を超えての加筆・共有
- 学校全体での取組とするため

(小学校) 各学級で同様の取組

(中学校) 学年会に所属する職員が学期に1度は記入

※様式のデータは、ポータルサイトに保存しております。

### ★今年度の研究推進にあたって

- ①育成すべき資質・能力の共通認識(定義づけ)  
 コミュニケーション能力・・・他者の考えを受け取った上で、自分の考えを表現する
- ②学習課題と発問の工夫
- ③単元全体、教科全体への広がり・つながりの意識

今回の協議会の内容を以下にまとめております。共有していただき、それぞれの実践へとつなげていってください。

【第1回研究授業（国語）】 日 時：平成29年6月14日（水）

単元名：新しい視点へ

一分かりやすく説明しよう

指導者：八次中学校 豊永政男 教諭



★授業で提案した指導改善のポイント

学習課題：スピーチ原稿で生かす書き方を学ぶため、  
筆者の書き方を比較する学習課題を設定する。

発問：「どちらが分かりやすいか」という発問により、  
文章の書き方に焦点化して考えさせる。



### 研究協議

- 予習で考えをもって、授業に臨むことができた。
- 小学校の教材を活用することで、学力に課題のある生徒の理解や学習内容のつながりを認識できた。
- 書き方の工夫を見つける際に、「工夫とその効果」をセットで考えさせるとよい。
- 考えさせる視点が明確でなく、全体交流で集約ができなかった。

### 指導助言

<三次市教育委員会 学校教育課 高下指導主事>

- ・既習内容を大切にし、本気で読ませようとするしかけが見られた。
- ・比較の観点である「内容」「構成」「表現」について、生徒自身の認識が不十分であった。

<広島県北部教育事務所 教育指導課 宮地指導主事>

- ・「スピーチを楽しみにしている」という生徒の声も聞かれ、単元のゴールを見通せていた。
- ・個別の指導計画対象児童生徒の座席の配慮や指示が見られた。
- ・考えさせることの焦点化も含め、目標についての精査が必要である。

<広島県教育委員会 義務教育指導課 玉木指導主事>

- ・協同学習の前と後で、子供たちの変容を生み出す工夫が必要である。
- ・「自分がスピーチに使うならどっちがよいか」という発問の方がよかった。
- ・課題のある生徒への手立てのためにも、指示が通ったかどうかを丁寧に見取る。

★どの教科にもつながる点

- ①予習・既習事項を生かした課題設定
- ②焦点化させるための発問
- ③子供たちの変容を促す協同学習

（今後の予定）

6月27日（火）第2回研究授業（小学校国語）

6月30日（金）第2回研修会

7月5日（水）第3回研究授業（中学校英語）

（各先生方へ）

1学期の取組で効果的であったもの、難しかったもの等を今後の研修等につなげていきたいと思います。

それぞれの実践事例（ノートの変容等を含む）やご意見ありましたら、研究担当の先生までよろしく申し上げます。